

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ねずみの、娘をAまうけて、「天下に並びなき婿を①とらん。」

と、おほけなくB思ひ企てて、「日天子こそ世を照らしたまふ徳

【めでたし】。」と思ひて、朝日のC出でたまふに、

「娘をもちてD候ふ。みめかたち②なだらかに候ふ。まゐらせん。」

とE申すに、

「われは世間を③照らす徳④あれども、雲に会ひぬれば光もなく
なるなり。雲を婿にとれ。」

とおほせられければ、「まこと」と思ひて、⑤黒き雲の⑥見ゆ
るに会ひて、このよし申すに、

「われは日の光をも隠す徳あれども、風に吹き立てられぬれば、
何にてもなし。風を婿にせよ。」

と言ふ。「さも。」と思ひて、山風の吹けるに向かひて、このよし
申すに、

「われは雲をも吹き、木草をも吹きなひかす徳あれども、F築地
に会ひぬれば力なきなり。F築地を婿に⑦せよ。」

と言ふ。「げに。」と思ひて、築地にこのよしを言ふに、

「われは風にて動かぬ徳あれども、ねずみに掘らるとき、耐
へがたきなり。」

と言ひければ、さては、ねずみは何にもすぐれたるとて、ねず
みを婿にとりけり。

(1) 〰〰〰 A～Fを現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

(2) ①～⑦の品詞名・活用形・基本形をそれぞれ答えなさい。

(3) 本文中の【めでたし】を適切な形に直しなさい。

(4) 次の文章の [ア] [エ] に適切な語を入れなさい。

本文の収められている書物は『ア』である。『ア』は、

[イ] 時代後期に成立したもので、ジャンルは [ウ] に分類さ

れる。作者は [エ] である。

高校古典

沙石集「ねずみの婿とり」(文法・文学史)

解答

(1) A もうけて B おもいくわだてて

C いでたもう D そうろう E もうす

F ついじ

(2) ① 名詞・未然形・とる

② 形容動詞・連用形・なだらかなり

③ 動詞・連体形・照らす ④ 動詞・已然形・あり

⑤ 形容詞・連体形・黒し ⑥ 動詞・連体形・見ゆ

⑦ 動詞・命令形・す

(3) めでたけれ

(4) ア 沙石集 イ 鎌倉 ウ 仏教説話集

エ 無住道暁